

## 交流・体験活動の実際（モデル的アクティビティの紹介）

### （１） 自然と触れあい、自然の理解を深めるアクティビティ

#### ア 野草観察と里山整備

子ども交流・体験活動事業名：「みんなで学ぼう！元気モリモリ！ の森」

アクティビティのねらい

- ・「里山」という身近な自然環境でのキャンプ（体験）活動を通じ、自然への理解を深める。
- ・体験を通じて資源や環境の大切さを見直し、仲間と協力して物事を行うことの大切さを学ぶ。

実施時期

4月～11月頃（里山に生息する樹木やキャンプに適した時期を考慮）

対象・参加人数

小・中学生 約30名（高校生スタッフを入れるのも可）

実施場所

地域の里山（青年の家や子どもの国などの森、自治体内にある里山で実施可）

準備物

野草観察：コース図、配布資料、図鑑、拡声器、笛、（草花遊び・天ぷら等を行う場合は資材も）

里山整備：エリアマップ、樹木見本、生息樹木一覧、樹木名札、麻ヒモ、マジック、はさみ、笛

アクティビティの展開

指導	進め方（指導者の動き）	実施上の留意点
準備	<p>講師に、「活動のねらい」と「所要時間」、「活動エリア」を確認する。</p> <p>里山整備のエリアマップ、樹木用の札、見本などの作製をする。</p> <p>野草観察のエリアマップ、草花遊びや食用体験もできるように準備する。</p> <p>事前説明会や事業中に「里山」に対する知識を事前に提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動エリア内の危険箇所確認</li> <li>・アレルギーの有無を確認</li> </ul>
導入	<p>野草観察（1.5～2時間程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野草観察を通じて、身近な草花の以外な一面（由来や利用方法など）を学び、自然への関心を高める。里山整備へ向けての意識付けを兼ねる。</li> </ul> <p>〔解説〕</p> <p>参加者は、講師やスタッフと一緒に活動エリア内を散策し、生息する野草などの説明を受ける。班付スタッフは活動班の参加者と知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図る。</p> <p>草花遊びや野草を使った料理など、参加者の五感を使った活動とすることで、受身の受講とせず、印象を強く残すように配慮する。</p> <p>参加者の人数によって補助講師を配置して、説明や指導が十分に伝わるよう配慮する（本事例では時間の都合上、活動班を2つに分けて体験）。草花遊びでは、草笛などが吹けた参加者には、できない参加者への指導を指示し、参加者同士で交流が深まるように配慮する。参加者自身が考え、実践するだけでなく、指導者にもなることができる。</p> <p>クモの巣取り、荷物運びなど、参加者が自発的に役割をこなすように配慮。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散策エリアの限定（時間・距離）</li> <li>・スタッフは活動班につき、参加者のフォローや事故防止</li> <li>・山歩きに適した服装を確認</li> <li>・樹木を傷つけないよう指導</li> <li>・刃物・天ぷら油等を使用する場合は、使い方と置き場所に注意</li> </ul>



実際に触れることも大切



草笛に挑戦！



野草の天ぷらを食べてみる

<p>展開</p>	<p>里山整備(1.5～2時間程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野草観察で得た知識(興味)をもとに、活動班に分かれて里山整備をする。講師は地域で整備活動をしている方とする。整備内容(今回は名札付)は、現地に残るものを選択し、達成感が得られるように配慮する。</li> </ul> <p>〔解説〕</p> <p>里山整備の内容は、整備活動する地域団体と事前協議をしておく。</p> <p>小学生ができる整備内容：樹木の名札付、散策道整備、草取り等</p> <p>里山整備をするエリアを限定しておく。参加者には、整備するエリアを明記した地図を配布。この際、移動時間が短い場所を選定しておけば、限られた時間内で十分な整備活動を行うことができると同時に、安全管理などの配慮もしやすくなる。</p> <p>取り付ける樹木の葉(季節によって花や実)の見本と名札を活動班に渡す(各班で好きな札を選んで取付け)。取付けは、班毎に活動エリア内の樹木から、該当する樹木を探し出して取り付ける。</p> <p>取付け時は、見本とあっているかどうかを、活動班内で判断。班員が協力して活動することで、班内の交流を深めることができる。また、見本を手渡しておくことで、付け間違いを無くす。</p> <p>好きな樹木名札(1枚)の裏面に、活動班名や活動年月日、メンバーの名前などを書いて取り付ける。その名札がどこに取り付けてあるかは、班の仲間しか知らない「秘密」とする。ちょっとした仕掛けによって、活動終了後にも家族や仲間、現地を再度訪れるきっかけとする。</p> <p>参加者が多い場合には、活動班を2つに分け、野草観察と里山整備を交互に体験してもよい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>樹木見本を参考に      スタッフと里山整備へ出発！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者がまず、自分達で考える時間を作ることが大切。質問があった場合も、まず図鑑等と一緒に調べてから指導者に確認するとよい。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  <p>取り付けた場所は…秘密</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動エリアや整備内容は参加者の体力、所要時間を考慮する。</li> <li>・スタッフは各班に配置、事故防止等に努める。</li> <li>・山歩きに適した服装を確認する。</li> <li>・看護師の待機場所は、旗などで遠くからも分かるよう配慮する。</li> <li>・スタッフは緊急連絡の手段として笛を持参する。(携帯電話が使えない場所の場合)</li> </ul>
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりカードに個人の感想を記入する。</li> <li>・落ち葉や木の実など、里山にある材料を使って、活動班で「里山整備」「自然観察」などの活動内容を絵日記風にまとめ、発表をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刃物類は数の確認と置き場所に配慮する。</li> </ul>

アクティビティ作成者の思い

「里山」という、人の手で守られた自然の中でのキャンプである。キャンプ場とは違い、水道もない環境でのキャンプは、参加者にとって身近な自然や資源に関心を持つきっかけとなるだろう。説明会では会場の里山整備をしている団体の活動にもふれ、「里山の整備」を「参加者自身の手で行うこと」に意味を持たせたい。限られた時間で、参加者・スタッフ双方が「ねらい」を達成できる工夫が必要である。

実施上のアドバイス

自然観察・里山整備は活動時間を長くとり、自然をゆったり楽しむことがねらいの達成につながる。

## イ 自然に優しい野外炊事 - エコ・クッキング -

子ども交流・体験活動事業名：「みんなで楽しむ！エコ・キャンプ」

アクティビティのねらい

- ・水道のない所でのアウトドアクッキングを通して、エネルギー・資源の削減やゴミの削減の方法についてみんなで考えるとともに、生活を創意工夫する楽しさを知り、地球に優しいキャンプを目指す。

実施時期

春季（４～６月）・秋季（９～１１月） ＊夏・冬季と生活が過酷ではない季節が望ましい。

対象・参加人数




小学生、または中学生 約 30 名




実施場所

水道のない所

準備物

青竹、ノコギリ、ナタ、金槌、小刀、紙ヤスリ、給水ポリタンク、薪、炭バサミ、カレー食材・米、デザート、お玉、しゃもじ、マッチ、新聞紙、アルミホイル、トイレトペーパー、洗い桶、スポンジ  
アクティビティの展開

指導	進め方（指導者の動き）	実施上の留意点
準備	<p>スタッフと活動のねらいと所要時間、活動場所、安全作業を確認する。 加工しやすいように、キャンプ前日に竹を切る。 竹の飯盒・カレー皿・箸の見本を作製する。 事前説明会で「自然に優しい炊飯方法」について考えておくようにさせる。 （参加者・スタッフとも）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動エリア内の危険箇所確認</li> <li>・アレルギーの有無を確認する</li> </ul>
導入	<p>竹飯盒・食器・箸作り(約2時間) 竹細工を通じて、身近な植物である「竹」の生育や性質を学び、自然への関心を高める。また、ノコギリ・ナタなど道具の正しい使い方を知るとともに、安全に留意して作業をする態度を養う。 〔解説〕 竹やプラスチック等の素材と生活用品をふり返り、「エコ」について考える機会とする。 身近な植物である「竹」の種類・生育や性質を学び、自然への関心を高めるとともに、竹細工を再認識させる。 ナタやのこぎり、小刀の使い方を学び、自分および他者が怪我をしないようグループのメンバー同士で注意し合うよう意識づける。 *用具は、グループ数と指導者及び補助指導者数に応じて準備する。 太い孟宗竹なので、一人では切るときにぐらつくため、仲間同士で押さえ合うよう指示し、参加者同士で交流が深まるように配慮する。 竹を紙ヤスリで磨き、ささくれをとり、仕上げをさせ、名前を書く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>竹細工の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ノコギリで竹切り体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ナタで太い竹割り</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業に適した服装や軍手、靴などを確認する。</li> <li>・スタッフは活動班につき、参加者のフォローや事故防止に努める。</li> <li>・ささくれへの注意を喚起する。</li> <li>・救急箱を用意する。</li> </ul>

<p>展開</p>	<p>エコ・クッキング「キーマカレー」(約3時間:準備～会食～片付け)          人間が生きていくためには不可欠な「水」に着目し、いかに資源を節約して調理・片付けをするかやいかにゴミを少なくするかを考え、グループで役割分担をして美味しい「キーマカレー」を作り、楽しく会食をする。また、「火の扱い方」や「炊事道具の正しい使い方」を学び、安全に留意して作業をする態度を養う。</p> <p>〔解説〕          給水ポリタンク(1個/班)や薪(1束/班)を見せて、限られた資源(水・燃料)を有効活用して野外炊事を行うよう意識づける。          ゴミを出さない工夫をみんなで考える。補足としてスタッフからもゴミ削減方法についてアドバイスする。          カレー作りの役割分担をみんなで考え、安全に留意して行動させる。          ナタや包丁の使い方を学び、自分および他者が怪我をしないようグループのメンバー同士で注意し合うよう意識づける。          火にかける鍋・竹飯盒の準備具合と薪割り・火起こしのタイミングを調整させる。          カマドの鉄の棒にかけた鍋がぐらつき、具がこぼれることによる火傷に注意させる。          竹飯は竹に当たる火の向きを変えたり、竹の中を見て炊き具合を確認する。          ご飯が炊けたら、竹を横にしてその上部を割って、「いただきます」          ご飯もカレーも残さずきれいに食べて、ゴミの削減に協力させる。          食器・箸・鍋は、新聞紙やトイレトペーパーなどでしっかり拭くと、タワシの水洗いできれいになる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="336 1160 552 1447">  <p>水の節約、節約!</p> </div> <div data-bbox="592 1160 882 1447">  <p>竹の向きを回さない?...?</p> </div> <div data-bbox="917 1149 1125 1424">  <p>キーマカレー 極めつけは、トマト缶</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕方になり冷えるので衣服の調整をする。</li> <li>・看護師の待機場所を伝達する。</li> <li>・手洗い、うがいを促し、衛生面を配慮する。</li> <li>・スタッフは各班に配置、事故防止に努める。</li> <li>・刃物は、慎重に扱う、自分の周りにも注意するよう伝える。</li> </ul>
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりカードに個人の感想を記入する。</li> <li>・活動班で「竹細工」「エコクッキング」などの活動内容を絵日記風にまとめ、発表をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刃物の数と置き場所の確認をする。</li> </ul>

### アクティビティ作成者の思い

「水道もない環境でのキャンプ」というと、「不便・不快」などのマイナスイメージで捉えられやすい。しかし、様々な困難や不便さに対して、みんなで考え、積極的に意見交換して解決・協力していくことで、最終的に「楽しかった」というプラスイメージにできるように、参加者への動機づけとスタッフの参加者への関わり方が重要である。

そのためには、プログラムは時間的余裕をもって運営し、スタッフからの考えややり方を一方的に押し付けてしまうのではなく、参加者がじっくり考え、判断し、行動できるようサポートしていくことが期待される。

## ウ 川のマイクロアドベンチャー

子ども交流・体験活動事業名：「みんなで学ぼう！エコ・サイエンス・キャンプ」

アクティビティのねらい

- ・川の下流から上流に向けて、あまり見かけない奇妙な姿をした水質指標生物である水生昆虫観察と科学的な水質検査により、身近な川への関心呼び起こし、自然環境の大切さを見直す機会とする。

実施時期

春季・夏季（5～7月）

対象・参加人数

小学生または中学生 約30名

実施場所

車で下流から中流・上流に移動して、調査できる川

準備物





水生昆虫観察：地形図、配布資料、水生昆虫図鑑・資料、色鉛筆、拡声器、笛、タモ（細かい目）、トレー、バケツ、ルーペ、ピンセット、

水質調査：水質バックテスト、温度計、メジャー、タオル・防寒着・着替え（各自）

その他：川マップ

アクティビティの展開

指導	進め方（指導者の動き）	実施上の留意点
準備	<p>スタッフに活動のねらいと所要時間、活動エリアを確認する。</p> <p>川の全体像をイメージさせるために地形図を用意する。</p> <p>水生昆虫を同定するための図鑑、または資料を2人に1つで用意する。</p> <p>事前説明会で「川」「海」に対する知識を提供し、各自事前学習させる。（参加者・スタッフとも）</p>	
導入	<p>ミニ講義（約1時間）</p> <p>川の環境</p> <p>水質バックテストの目的・使用法</p> <p>水生昆虫の分類法</p> <p>止めどなく水が流れる川の環境（下流・中流・上流，蛇行，瀬・淵，川の3要素など）について知り、そこに棲む魚・昆虫などの水生生物の生態や山と川、そして海との関係についてイメージ化を図り、自然の理解を深める。</p> <p>〔解説〕</p> <p>参加者に活動の全体イメージをもたせるために、ビジュアル化した資料でミニ講義を行う。（山・川・海の関係，川の下流～上流）</p> <p>水質バックテストの目的や使用法を理解させ、フィールド調査がスムーズに運営できるようにする。</p> <p>多くの水生昆虫には、分類の仕方があることを知り、代表的な昆虫を色鉛筆で塗って、イメージ化を図る。</p> <p>川の調査では、滑る、足元が不安定など怪我が起こりやすいので、安全に留意して行動する態度を養う。</p> <p>班で協力して調査を行うが、安全管理の意味でバディシステムをとる。</p> <p>質疑応答の時間をとり、知識を深める。</p>	<p>・野外活動に適した服装を確認</p> <p>・川で大怪我をしかねないので、話をしっかり聞かせる。</p>

<p>展開</p>	<p>水生昆虫観察、図鑑で確認、水質検査(約4時間)</p> <p>ミニ講義で得た知識をもとに、活動班に分かれて水生昆虫を観察、観察した昆虫を図鑑等で名称を確認、観察した川の水質検査を行う。</p> <p>〔解説〕</p> <p>下流・中流・上流でのそれぞれの活動時間を伝え、効率よく班で調査する。活動エリアの指定と再度、足元が不安定なことによりケガが起こりやすいので、滑りやすいことなど安全に留意することを伝える。</p> <p>参加者の人数によって補助講師を配置して、説明や指導が十分に伝わるよう配慮する。</p> <p>水生昆虫は、数多く採集するのが目的ではなく、どんな種類がいるのかを観察し、同定するように促す。</p> <p>参加者がまず自分たちで考える時間をとることが大切である。</p> <p>質問があった場合も、まず図鑑と一緒に調べてから指導者に確認するとよい。</p> <p>水質パックテストは、同じ子ばかりがやるのではなく、交代させる。</p> <p>調査では、人員点呼を確実に行った上で、移動を開始する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>川の水質調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>水生昆虫観察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>川マップ作り</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動エリア内の危険箇所確認</li> <li>・スタッフは各班に配置、事故防止に努める</li> <li>・動かした岩は、また元の位置・面に戻しておく。</li> <li>・寒がる子には、衣服調整させる</li> <li>・スタッフは、緊急連絡の手段として笛を持参する。</li> </ul>
<p>ふりかえり</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>(約1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で川マップ(下流・中流・上流)に調査事項をまとめ、そこから言えることを考えて、まとめ、班内で発表する。</li> <li>・また自分のできる川の汚れを取り除く方法を考え、みんなと意見交換する。</li> </ul>	

#### アクティビティ作成者の思い

「川」というと、アマゴ・マス・アユなどの魚釣りや夏の川遊びを思い浮かべるが、その岩をそっとどけてみると奇妙な姿をした多くの水生昆虫が生息している。子どもたちにとって日頃、見慣れないその姿は新鮮であり、また滑稽であり興味・関心がわくものである。

そして、それらの水生昆虫の生息を調査することが、実は、川の水質調査に結びつき、それをまた科学的パックテストで裏づけをとりながら、生活排水・工場排水など今日の川の水質汚濁の問題に目を向ける機会としたい。

## (2) 人間関係を促進するアクティビティ

### ア ふれあいゲーム

子ども交流・体験活動事業名：「つくろう友だち！体験しよう自然！in 高原」

アクティビティのねらい

- ・初対面の班の子ども同士が、実際に指と指を合わせるスキンシップを行うことで、緊張感を和らげ班内交流を活性化させる（アイスブレイク）。
- ・班で1つの模造紙（B紙）に目標を書くことで、班の団結感を得ることができる。
- ・この事業での目標を、期間中に視覚で意識させることによって、子ども達自身が自分の成長を自覚することができる。

実施時期

事業の最初に行う。

対象・参加人数

小中学生 60名（10名×6班編成）


実施場所


少年自然の家 会議室（班毎に集まれるスペースのある室内ならどこでも可）

準備物

机、新聞紙、マジックペン、模造紙（B紙）付箋（大きめのサイズを多めに）

アクティビティの展開

指導	進め方（指導者の動き）	実施上の留意点
準備	子ども達の目標が、事業の目的・ねらいから外れないように、指導者自身が事業の目的・ねらいを再確認する。 机のレイアウトを行い、備品を準備する。	・机のキャスターをロックする。
導入	班員で円を作るように座る。 各班で机を汚さないように新聞紙を敷いて模造紙（B紙）を広げる。 マジックペンなど必要な用具を各班に配る。 活動の説明	・不必要な刃物類（はさみ・カッターなど）は片づけておく。
展開	ビーイング(Being) *プロジェクトアドベンチャーのアクティビティ 自分の親指同士をくっつける。 自分の小指と両隣の人の小指をくっつけ、班員全員の手で円を作った状態で模造紙（B紙）の上に手を置く。 	・マジックペンで気分が悪くならないように換気に気をつける。

<p>展開</p>	<p>ペンで手の型を取る。全ての手の型がつながり、円が出来る。          円の真ん中に、宿泊中の班の目標を書く。          自分の手の型の中に、宿泊中の自分の目標を書く。          (班の目標になるようなもの)</p>  <p>作成した作品の活用(1日の活動後に各グループで20分程度)          作成した模造紙(B紙)を囲んで、一日の終わりにふりかえりを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の目標の何が達成できたか。</li> <li>2. 何が出来なかったか。</li> <li>3. 1、2より班の目標に向けて個人が何をするのか。</li> </ol> <p>3つの視点を付箋に書き、模造紙(B紙)の自分の指の先に貼る。          書かれた内容をグループで話し合う。</p> <p>ビーイング(Being)          自分たちが安心していられる環境を作るには、どうしたらよいかを考える。人の形や手の形などを描き、そしてその中に、自分たちが決めたルール(安心できるグループにするために必要なこと)を記入していく。形の外側には、それを妨げるもの(妨げる要因)を記入していく。互いに、妨げる要素を取り払うように努力することによって、互いの信頼関係を深めていくアクティビティ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の目標、自分の目標をその場で決める場合は、時間配分に注意する。</li> <li>・ふりかえりで話し合ったことが活動を重ねる毎に改善され、班の目標に近づいていくように意識できるように促す。</li> </ul>
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の反省を行うときに、進行者とその場の雰囲気を変えて、作業に切りつけさせ、しっかりと反省が出来る場を作る。</li> <li>・最終日に自分が、目標に向かってどのように進んできたかを見直す。</li> </ul>	

#### アクティビティ作成者の思い

子どもは目標を設定しても常に目標を意識して活動するのは難しい。事業の期間中、一日の終わりに初日にグループで確認しあったことを、活動ごとに行うふりかえりにより繰り返し確認することによって、目標を意識して活動することができる。また、自分が目標に向かってどのように意識してきたのか、行動してきたのかを確認することができる。

#### 実施上のアドバイス

各班にグループカウンセラー(リーダー)を配置して目標をその場で決めた。グループカウンセラーがねらいを理解し、参加者一人ひとりに合った言葉がけをすることが求められる。

目標を決めることに時間がかかり、決めた時間までに作成が間に合わないグループが出ることもあるが、時間を延長して完成させることも大切であり、団体行動での時間の大切さも伝える必要がある。



## イ アドベンチャーラリー

子ども交流・体験活動事業名：「つくろう友だち！体験しよう自然！ in 高原」

アクティビティのねらい

- ・一人では出来ない課題を仲間と協力しながらこなしていくことで、終わった頃には初めて顔を合わせた子どもたちでも、お互いを信頼しあった仲になる。
- ・緑の多い森や広場で実施することで、自然の中で過ごす気持ちの良さを味わう。

実施時期

通年

対象・参加人数

小中学生 60名（10名×6班編成）

実施場所

少年自然の家（青年の家や子どもの国などの森、森林公園などでも可）



準備物

全体：指令書、丸太（平均台でも可）案内板、救急箱

参加者：帽子、水筒、タオル、運動靴

アクティビティの展開

指導	進め方（指導者の動き）	実施上の留意点
準備	<p>課題のフィールドの選択。（課題ア～ウを離れた場所に設定した）</p> <p>指令書を作る。（今回は場所を探し、探し出した場所で行う課題を書いた）</p> <p>丸太もしくは平均台の準備。</p> <p>安全確保のために、立入禁止や誘導矢印などの案内板を設置。</p> <p>持ち物、服装のチェック、体調チェック。</p>	<p>・活動エリア内の危険箇所の確認（害虫・有害植物・危険物など）</p>
導入	<p>活動班ごとに整列、点呼、指令書を配る。</p> <p>ルール説明</p> <p>敷地内の何処かに、指令書に書かれている場所があることを伝え、場所に着いたら課題が用意されているので課題をクリアするよう伝える。</p> <p>安全指導</p> <p>危険物・危険行為に対する指導と案内板の説明。</p> <p>活動班でまとまって、指令書に書かれている場所へスタート。</p>	<p>・活動班のスタッフは、参加者の迷子や危険行為に注意しフォローする。</p>
展開	<p>アドベンチャーラリー（3時間程度）</p> <p>〔解説〕 指令書の中身</p> <p>指令ア：階段（10段以上の階段）を見つける。</p> <p>指令イ：丸太を見つける。</p> <p>指令ウ： 広場を見つける。</p> <p>アで行う活動：「みんなで一緒に、いっせ～の！」</p> <p>班員全員で同時に足を踏み出して階段を下りるという課題を行う。指導スタッフは「同時」というテーマを意識して、子どもたちが息を合わせて課題に取り組むよう促す。</p>	<p>・熱中症に注意し、適度な休憩と水分補給を促す。</p>

<p>展開</p>	<p>イで行う活動:「ラインナップ」</p> <p>丸太の上に全員立った状態で乗る。その後、丸太の上だけで何かの条件順(背の順など)に並び替えを行う。</p> <p>不安定な足場で互いの場所を入れ替えなくてはならないので、仲間の体を支えたり、支えてもらったりしなくてはならない。活動班のスタッフは力を合わせて協力しあうようアドバイスする。</p>  <p>ウで行う活動:「子とろ鬼」</p> <p>下記のルールで子とろ鬼を行う。</p> <p>列に並ぶ。(以後、列で鬼ごっこを行う。)</p> <p>列の先頭の子が列から離れ、鬼役になる。</p> <p>鬼は列の最後尾の子にタッチする。(もしくは最後尾の子に付けた目標物を取る。)タッチできなかつたら3分で終了。</p> <p>1人終わる毎に鬼は最後尾につき、鬼のローテーションを行う。</p> <p>1周したら課題クリア。</p> <p>この課題では、列を成している子ども達が、互いに協力し前後の仲間を意識しながら、最後尾の子を鬼から守るために団結することがねらい。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>丸太や平均台からの落下に注意し、スタッフはいつでも支えられるように準備しておくこと。</li> <li>転んだ際に大きなケガにならないように、フィールド内の石や突起物を取り除いておく。</li> <li>子ども達の体格差を見極め、小さい子に無理がかかっていないか判断する。</li> </ul>
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての課題がクリアできたかをふりかえり、クリアするために協力したプロセスを大切にして、活動の中で助け合った事実気付かせる。</li> <li>自然の中での活動の楽しさを分かち合う。</li> </ul>	

#### アクティビティ作成者の思い

グループカウンセラーがアクティビティのねらいを十分理解していないと目標である「参加者同士がお互いを信頼しあった仲になる。(協力と信頼)」ことを意識した働きかけができず、課題の成否にこだわってしまうことがある。グループで課題解決の方法を話し合うことや、「なぜできなかったのか」について考える時間が大切である。

#### 実施上のアドバイス

課題の数を設定する際には、移動するフィールドの大きさ、参加者の年齢を十分考慮し、グループの中にいる年齢や体力が高い1人や2人の力では解決できない課題を設定する。

## ウ キャンプファイヤー

子ども交流・体験活動事業名：「であい・ふれあい・わかちあい合宿」

アクティビティのねらい

- ・キャンプファイヤーを全員で協力して作り、ファイヤーを囲み、ゲーム・スタッツ等を全員で楽しむこととて、仲間意識を育む。

実施時期

8月中旬

対象・参加人数

小学生、中学生、高校生 約 50 名

実施場所

少年自然の家 営火場

準備物

【晴天時】


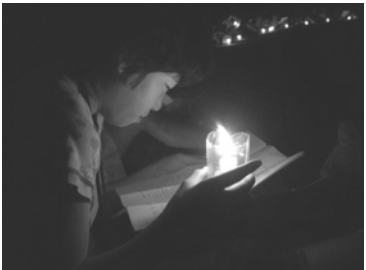
薪、灯油、キャンドル、アルミホイル、マッチ、新聞紙、皮手袋、金バケツ、ナタ、火ばさみ  
トワリング棒（製作用資材含む）、懐中電灯、竹ぼうき、ちりとり、ブルーシート、スコップ  
工具（ノコギリ、ペンチ）救急箱、釘、CDラジカセ、消火器、延長コード他

【雨天時】

キャンドル、アルミホイル、懐中電灯、飾台、蛍光塗料、ラップ、セロテープ、カッターナイフ等  
アクティビティの展開

指導	進め方(指導者の動き)	安全面の配慮
準備	<p>点火の方法を決定する。その方法により、トーチ棒やキャンドルを必要数分+予備分を作成する。トーチ棒は事前に灯油につけておく。</p> <p>ファイヤー用井桁(飾台)の設営、マジック点火の仕掛け設置、ファイヤーキーパーの待機場所の設営を行う。なお、井桁(飾台)にはビニールシートをかぶせておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害物を除く</li> <li>・あなたの取扱いでケガに注意</li> </ul>
導入	<p>スタッツづくり</p> <p>スタッツとは、各グループでキャンプ中に起こったことなどを題材に創る劇や替え歌などのこと。</p> <p>スタッツの概要を説明。</p> <p>スタッツの課題はキャンプ参加者が全員わかるもの。</p> <p>例) カウンセラーの秘密、テントのできごと、ハイキング、食事風景 キャンプ(あるいはカウンセラー)の10年後、など</p> <p>各班入退場込みで5分以内という条件を指定。</p> <p>班ごとに高校生リーダーが中心となって、スタッツ案を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生リーダーが円滑にミーティングを進めることができるよう、班別スタッフがサポートする。</li> </ul>



<p>展開</p>	<p>キャンプファイヤーの実際</p> <p>キャンプファイヤーに関する注意点等を説明してから、エールマスターの先導により、参加者を会場に誘導する。</p> <p>全員で合言葉を言ったのをトリガーにして、マジック点火により井桁（飾台）に点火する。</p> <p>失敗した際の予備の点火方法を用意しておくこと。</p> <p>「猛獣狩り」などの集合ゲームを行い、場の雰囲気をもたせる。</p> <p>スタンツを披露してもらう（半分の班）</p> <p>エールマスターやスタッフ主導で少し動きのあるゲームを行い、親近感をアップさせる。</p> <p>スタンツを披露してもらう（半分の班）</p> <p>さらに全員が参加できるゲームを行う。</p> <p>みんなが楽しんで踊れるダンスを行い、全体が最高に盛り上がる。</p> <p>ジェンカなど</p> <p>命令ゲームからの流れで、スタッフによるサプライズプログラム。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプカウンセラーのスタンツ</li> <li>・本部スタッフからのスタンツ</li> <li>・火舞 親からの手紙</li> </ul> <p>親からの手紙は、班付きスタッフからひとりひとり手渡しする。</p> <p>エールマスターの先導により、参加者を退場させる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井桁（飾台）に近づかない等</li> <li>・周りが暗いので転倒等に注意</li> </ul>
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりカードに個人の感想を記入する。</li> <li>・キャンプの成果（楽しかったこと、大変だったこと、うれしかったことなど）について参加者や運営スタッフの代表が話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物品の数の確認</li> <li>・消火確認</li> <li>翌日にも最終確認</li> </ul>

#### アクティビティ作成者の思い

学校などで経験するキャンプファイヤーの要素に、「マジック点火」や「親からの手紙」などのサプライズ要素を加えることにより、今まで経験したことがないキャンプファイヤーを展開したい。

スタンツについては、それぞれオリジナリティのあるスタンツができるようにグループカウンセラーは話し合いを援助することが重要である。

#### 実施上のアドバイス

スタンツもスタッフが考えるゲームも品がある内容を行うことが大切である。また、一部の参加者やスタッフだけがわかる内容では全員が楽しめない。キャンプファイヤーの予備のゲームをいくつか用意しておき、展開に合わせてゲームを行うことも大切である。